

わがまち瀬谷

第30号 (平成22年7月1日発行)

編集・発行 セヤ・ガイドの会



大久保原公園から見たお墓山

瀬谷の魅どころ

お墓山・安藤家の墓所 (横浜市登録文化財)



・お墓山 (平成12年11月6日登録)

県道瀬谷柏尾線に接する阿久和南二丁目の榊山丘陵の上部平坦地に、徳川幕府の旗本 阿久和領主安藤次右衛門一族の墓所、通称「お墓山」がある。

この墓所は、3代目正珍(まさよし)が祖父定次、父正次の冥福を祈るため、先祖が大切にしていた聖観世音菩薩を本尊として、元和元年(1615)阿久和山曹洞宗観音寺(泉区新橋町)を創建し、その時に造られたといわれている。

・墓碑と石像

先祖の戦功事跡を残すために、頌徳碑を父正次50回忌に建立した。それを囲んで墓碑がある。

- ・正珍の母：八田氏妙霊孺人 元和3年(1617)没
- ・正珍弟の正頼：安藤備後守次俊寛文3年(1663)没
- ・三代正珍：2540石旗本直参 寛文6年(1666)没
- ・正珍の妻：安藤君孺人椋原氏寛文11年(1671)没
- ・四代正程：稲光院殿前金吾釈 延宝7年(1679)没

この他に不動明王像(年代不詳)、墓所の東南には、家臣から寄贈された阿弥陀光背像、燈籠柱2基がある。

・安藤家(系譜による)

先祖は藤原姓を名乗り、清和源氏の士族で、三河国(現在の愛知県)出身の直参旗本で、安藤氏の分家、次右衛門を代々名乗る。

初代定次(正珍の祖父)は戦国時代16戦に貢献、家康より次右衛門の名前を賜るが慶長5年(1600)京都伏見城で61歳戦死。

2代正次は天正18年(1590)阿久和の地頭に着任。元和元年大阪夏の陣にて51歳で戦死(大阪平野願正寺)。

3代正珍は、秀忠・家光の槍奉行 寛永10年(1633)2540石の知行となる。観音寺 願正寺を建立し、仇討鍵屋の辻事件に関与。寛文6年63歳没(お墓山)。

4代正程(まさのり)は、家綱の御徒頭、延宝7年43歳没(お墓山)。以降墓所は新宿区早稲田の龍善寺にあり、本尊を阿弥陀如来(鎌倉時代作、新宿区文化財)とする古刹である。

5代定房は茶壺奉行、御旗奉行となり、江戸上屋敷に住む。寛保3年(1743)駕籠訴訟事件(定房の圧政に耐えかねた農民たちによる老中松平伊豆守への直訴)が起きた直後73歳没。

6代定殻(さだよし)は、寛保3年前記事件で蟄居処分(両成敗)、9代定喬(さだたか)は、文政9年(1826)阿久和熊野神社の社事に率先。

12代正義の時に明治維新を迎える。



正珍建立頌徳碑



阿弥陀光背像



花あっちこっち

ヒマワリ（向日葵）

花ことば：熱愛



観賞用として広く栽培されるヒマワリは原産地が北アメリカで、高さ約2mまで生長し、夏に約30cmの大きな黄色の花を咲かせる。種子は食用に、種子から採った油は石鹸や塗料の原料になり、茎や葉は家畜の飼料に利用される。ヒマワリは、漢字で「向日葵」と書かれ、別名、「日輪草」（にちりんそう）、「日車」（ひぐるま）と呼ばれる。花が太陽の動きにつれてまわることから、「日回り」と書かれることもある。

太陽の動きにつれて花が回るといわれるが、実際に太陽を追って動くのは、つぼみを付ける若い時期だけである。つぼみが大きくなり花が開く頃に動きが止まり、完全に開いた花は東を向いたままほとんど動かないとのことである。

ヒマワリは歌、映画、絵画などに登場し、オランダ人画家ゴッホが描いた作品は多くの人に親しまれている。
「向日葵の ゆさりとせぬ 重たさよ」 北原白秋

耳寄り情報

境川沿いと鎌倉古道沿いに桜の名所づくり実行委員会

平成19年度「ヨコハマ市民まち普請事業」へ、実行委員会と町内会の熱意で、「境川沿い堤防と鎌倉古道沿いの民家内に、河津桜・ミカイドウ・カルミヤを151本植栽する」提案をし、見事合格した。平成21年3月に町内会や子供たちと一緒に植樹し、掲示板・ベンチも設置した。次世代に残す新しい瀬谷スタイルの事業で、瀬谷区の新名所にしようと活動している。



また、実行委員会と町内会有志が中心となって、瀬谷北部の魅力を知ってもらいたいと地元の史跡や文化を案内したガイドブックを作成し、平成22年3月、中屋敷地区センターへ集合したのち、同地区センター周辺の自然と歴史を訪ねるウォーキングが開催され、多数の方々が参加し熱心に説明に耳を傾けていた。



まちかど

横浜市立瀬谷さくら小学校

下瀬谷小学校と日向山小学校が統合し、「瀬谷さくら小学校」として開校した。

所在地：瀬谷区下瀬谷3-58-1

開校：平成22年（2010）4月1日

校長：初代（現）・古川 幸子

児童数：460人（平成22年6月21日現在）

学校の特徴

- (1) 自分を大切に子・他を思いやれる子の育成
 - ・コミュニケーション能力の育成
 - ・基礎基本の定着
 - ・情報教育の推進
 - ・体力の向上
- (2) 学校・家庭・地域が共に児童育成を見つめ育てていく学校運営

